

日本性科学会 ニュース

第39巻第3号

令和2年(2020年) 9月

発行人:針間 克己 印刷所:(株)絢文社

2020年度 日本性科学会総会

日本性科学会総会は、毎年、学会が主催するセックス・カウンセリング研修会の昼休み開催されました。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染防止のため書面総会として開催されました。

2020年6月17日に議案と資料を全会員に送付し、同年6月30日までに返信をお願いしました。

その結果、139名からの返信がありうち74名は議決権行使、65名は理事長への委任がありました。

提出された6議案については、すべて過半数の賛同が得られ承認されました。

尚、詳細は学会雑誌Vol.38 No.1に掲載されています。

第40回 日本性科学会学術集会 開催延期のお知らせ

2020年10月25日(土)に開催を予定しておりました第40回日本性科学会学術集会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、来年(2021年)度に開催を延期させていただくことを決定いたしました。参加を予定しご準備くださっていた皆様には、ご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳ございません。

延期となる日程につきましては、来年(2021年)度の秋頃を予定しております。詳細が決まり次第、改めてご案内させていただきますので、今しばらくお待ちくださいますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、学会が予定されていた10月25日は、下記の通り、オンラインで性治療研修会を行う予定です。慣れない試みですが、皆さんの参加をお待ちしています。

第40回日本性科学会学術集会会長 針間克己

Vol. 39

No.
3

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

第49回 日本性科学会 セックスカウンセリング研修会

日 時：2020年10月25日 (Zoom 開催)

メインテーマ「周産期のセクシュアリティ・セックスセラピー」

1. 開催時間 9時～12時 (講義のみ)
2. 参 加 費 一般 3,000円 会員 2,000円 学生 1,000円 PeaTiX または振込
3. 単位認定 5単位 (今回ののみ)

プログラム

- 9:00～9:05 開会の挨拶 日本性科学会理事長 針間 克己
司会：菅沼 信彦（名古屋学芸大学看護学部教授）
- 9:05～9:45 周産期のメンタルヘルスと夫婦
筑波大学医学医療系精神医学准教授 根本 清貴
周産期は家族が増えることにより家族に変化がおこり、夫婦の関係も変わる。
このダイナミックな変化について考察する。
- 9:45～10:25 授乳と性
つくばセントラル病院産婦人科部長 田中 奈美
授乳中の女性における生理的な変化と、おこりうる性の問題について学び、対処法についても考えたい。
- 10:25～10:35 休憩
司会：茅島 江子（秀明大学看護学部学部長）
- 10:35～11:15 妊娠中・産後の性生活とパートナーシップの工夫
ルイ・パストゥール医学研究センター研究員 早乙女智子
妊娠中や産後の性のニーズに対して、医療従事者は科学的根拠に基づいて支援できているのか学び直そう。
- 11:15～11:55 産後の性生活調査から見える夫婦の形
株式会社TENGA ヘルスケア 営業企画 / 助産師 / 看護師 古川 直子
産後の性生活について、第1子出産後1～5年の夫婦を対象に調査を実地し、産後の性欲変化、セックスやマスターべーションの再開時期についての調査報告
- 11:55～12:00 閉会の挨拶 日本性科学会副理事長 早乙女智子

参加申し込み方法

申し込み手順は HP に記載してあります。

日本性科学会理事長退任のご挨拶

大川玲子

2006年から15年という長きにわたり、阿部輝夫先生との伴走で日本性科学会理事長を担当してまいりました。初代馬島季麿理事長から、松本清一、野末源一という、本会設立メンバー、かつ産婦人科学会を代表する方々の後任という重さに、忸怩たる思いでした。生来の無謀さで漕ぎ出したものの、大過なく終えることができたのは野末先生始め、先輩、性科学の同士みなさまの、支えあってのことです。針間、早乙女ラインにバトンタッチして一安心、というより年齢や硬くなつた頭を顧みると遅すぎた感があります。

本学会との出会いは設立当初の性科学セミナーですが、それをきっかけに金子和子、渡辺景子、堀一子の臨床心理士グループのケース・カンファレンスに割り込む機会を得ました。セラピーとは本来心理療法ですが、その深さに驚き、それを原型に、身体・性器の診察もできる婦人科医の特徴を生かそうと、セックス・セラピーを始めました。結果、私のセラピーは初めから、カウンセリング、教育、診察・トレーニングを組み合わせた1セッション1時間としました。婦人科医がこれを実現するには、同僚との仕事配分や採算性などの課題がありますが、前提にしてしまえば何とかなるものです。カウンセラー、セラピストの認定制度はその後に発足したものです。

日本性科学会副理事長退任のご挨拶

セクソロジー 50年

今回、本学会の副理事長を退くことになり、一言ご挨拶いたします。精神科医になって今年で丁度50年になりますので、この間を振り返ってみたいと思います。

私は1983年に本学会に入会しましたが、それ以前から学会には出席していてアメリカからお招きしたパトリシア・シラーさんの特別講演を聴いてセックス・セラピーに興味をもちました。セクソロジーとの出会いは、今考えてみればフロイトでした。高校生の頃フロイトの「精神分析入門」「夢判断」「性理論に関する三つのエッセイ」などを小説より面白と思って読んでいました。ひょんなことから医学部に入ることになり、やるのなら精神科と決めていました。順天堂大学の精神科にはフロイトの翻訳者の懸田教授がおられたので、1970年に入局し性障害を精神分析で治してやろうと意気込んでいました。しかし、治療改善率は極めて低く焦りを感じる毎日でした。その頃、今度理事長に就任された針間先生が医局に遊びにこられたことを覚えています。

精神分析的アプローチで治療が長引いて悩んでいた頃、マスター&ジョンソンの著書「人間の性反応」に続いて1970年に出版された「人間の性不全」では治療改善率がなんと60%と高率であることに驚かされました。その4年後にカプランの「ニュー・セックス・セラピー」が出版され、性治療が精神療法を基盤とした行動療法として集大成されたわけです。

1980年コネル大学精神科のカプラン教授のもとに留学し、マスター&ジョンソンの診療所や、マウント・サイナイ医大、ワシントン大学でのセックス・セラピー講習会に参加するなど、良い経験をさせてもらいました。シラー博士の自宅にも寄せていただきました。

帰国後どうすれば効率よく性障害を治せるかを考えていました。最近は頭が固くなつて良い治療法を思い浮かばなくなりましたが、これまで考案した治療法のいくつかを恥を忍んで列記しておくことにします。

- シール法を考案（1981）：切手を使った夜間勃起の有無の確認法。
- 新センセート・フォーカス・テクニック（1982）：カプランの手法を日本人に使いやすく改良したタッピング法。
- 日本初のNPT（nocturnal penile tumescence）を制作（1983）：カプランから譲り受けた設計図をもとに作った夜間勃起計測器（現在のリギスキャン）

性科学を志す者としてはWASも大きな経験でした。1995年、横浜のWAS大会の後、1997パレンシア大会で、阿部先生の後任といった形で選出されたadvisory committeeを、英語に苦労しつつ2009年まで続けました。幸せにもそれを労い、2019メキシコ大会で、WAS Gold Medalを受賞しました。

本会理事長としては、それまでに確立された性科学会活動の灯火を消さずに済んだ、というのが正直なところです。1995年、2005年と版を重ねた「セックス・カウンセリング入門」の出版に関わりましたが、私の代ではようやく一昨年、第3版といえる「セックス・セラピー入門」の出版にこぎつけました。

2012年、日本性科学会の事務局・カウンセリング室の移転（青山から本郷へ）と、学会とカウンセリング事業の統合は一仕事でした。また同じ年に本会を含めたJFS（日本性科学連合）主催の第12回アジア・オセアニア性科学会を松江市で開催しました。魅力的な都市ですが国内的にも交通不便な松江市に、多くの会員の参加・協力をいただき、大成功だったと思います。

終わりに、終始学会の縁の下を支えてくださった、吉川・亀沢の両氏に深い敬意と感謝を表します。ありがとうございました。

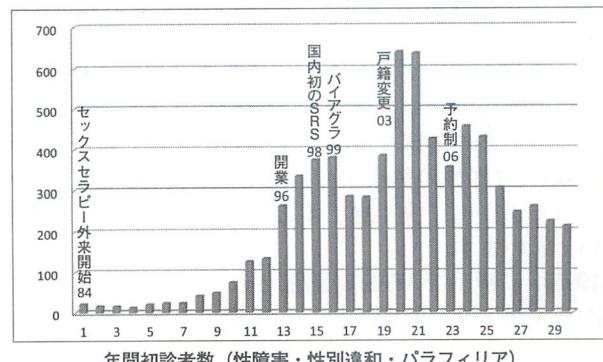
阿部輝夫

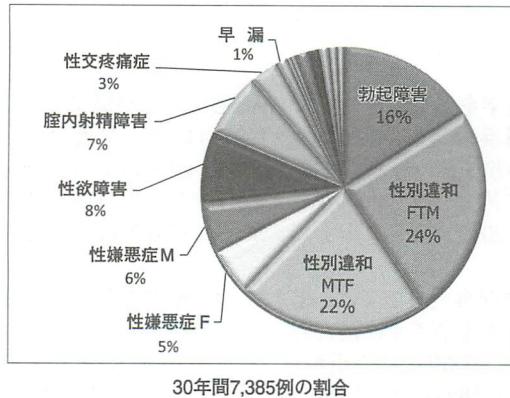
- 『セックスレス』のwordを提唱（1991）：1991年に提唱し、1994年に日本性科学会学術集会その定義の合意が得られた。
- 腔内射精障害の病因分類（1992）：11種類の病因があることを発表。
- ノンエレクト法を考案（1993）：勃起障害の逆説的心理療法。
- コンドーム・マス法を考案（1999）：早漏や勃起の持続訓練に用いる。
- 咳をしながらの挿入練習を考案（2002）：挿入障害の治療法。

私のセックス・セラピーは、精神療法を基盤にした行動療法で、カプランの手法をアレンジしたもので、興奮相の障害である勃起障害やオルガズム相の障害である早漏・腔内射精障害などは容易に治療できますが、欲望相の障害である性欲低下障害や恐怖症に類似した性嫌悪症は治療困難と言わざるを得ませんでした。しかし、有効な薬剤の登場によって、性嫌悪症の改善率は上がってきています。残念ながら性嫌悪症はDSM-5とICD-11の診断項目から姿を消しました。

日常診療では男性の性嫌悪症が増えて来ており、世界の学問の流れと逆行している感があります。性嫌悪症の共通した病因として“愛情の質の変化”があることに気づいてはいるのですが、なぜ・どのようなメカニズムで・どのようなタイプの人に起こりやすいのか？配偶者とのマッチングにも関係あるのか？などについて今後解明に努めたいと思っております。

1984年に順天堂大学浦安病院に着任後セックス・セラピー外来を設け、1996年に開業し、これまで30年間に経験した性障害関連症例（総数7,385例）の統計を示します。



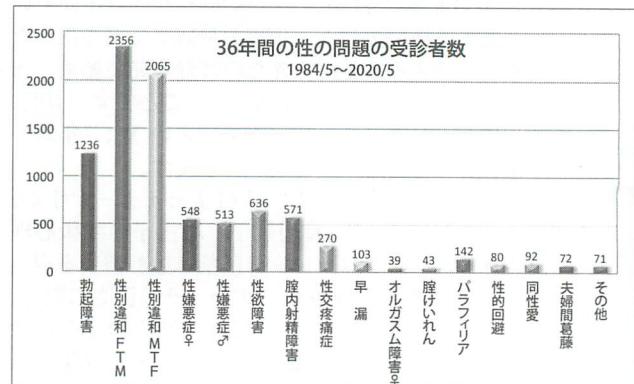


30年間7,385例の割合

「性同一性障害」といわれていたものが昨年のDSM-5でgender dysphoriaとなり、日本精神神経学会でも「性別違和」と用語を変えました。脱医学化して障害と呼ばなくなりました。昨年の暮れまでに戸籍の性別を裁判所が変更許可した性別違和の当事者は、4,353名に達しています。当院でも3,516人の当事者に対応してきました。この数は文献から見る限り、一精神科医

が診た数としては世界一になると思います。まもなく古希を迎えます。これから何年仕事をできるか判りませんが、最後までセクソロジーに携わっていこうと思っています。

最後に順天堂大学浦安病院に入職した1984から今年までの36年間に経験した性に関する問題の症例数をグラフで提示しておくことになります。



新理事長あいさつ

このたび、日本性科学会の理事長に就任いたしました。本来ですと、今年5月の性治療研修会時に開催される理事会及び総会で審議し、決定した後にあいさつをするのが筋かと思います。しかし、新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、性治療研修会は中止となりました。代替策として、5月にオンラインによる理事会を開催し、その後は文書による総会となりました。このような手続きを経て理事長に就任したわけですが、正直実感が伴わないまま、重責を背負ってしまったという心境です。

私自身は、現在、大学には籍を置いておらず、研究も行っていません。もっぱら現場で働き続ける、一開業医です。本来であれば、研究に従事している大学人が、学会の長であるべきかとも思います。また、これまでの当会の歴代理事長は、戦後日本の性科学界の顔というべき巨人たちです。それを継いで理事長に就任することは、鼎の軽重を問われるべき人事かと思いました。ただ、私は医師になった2年目の平成3年より、30年にわたりこの学会に参加してきました。また精神医学の中でも性の

はりまメンタルクリニック院長 針間克己

分野ずっと臨床をやってきました。いわば「現場のたたき上げ」として、本学会の理事長に就任することになったと感じています。学術的には、実力が足りませんが、現場の人間としての経験や感覚でその不足を補っていきたいと思います。

コロナの中、理事長として最初の仕事は、私が学会長として開催する第40回日本性科学学会の延期という苦渋の決断でした。中止や延期が続き、学会としての存続意義も問われるところです。まさに苦難の中の出発です。ただ、危機はイノベーションの好機もあります。理事会や幹事会はオンラインで行い、遠隔の先生方も出席できるようになりました。症例検討会も今後しばらくオンラインで行う予定ですので、より多くの参加が期待されます。オンラインでの研修会も企画中です。コロナ下であってもIT化の促進で、より多くの人に性科学の知見を共有し議論できるようになるはずです。嵐のあとには虹ができます。会員の皆様の力をあわせて、乗り越えていきましょう。よろしくお願いします。

新副理事長あいさつ

この度は副理事長を拝命し、心引き締まる思いであります。大川玲子元理事長から打診されたときは現実味がありませんでしたが、当学会の歴史やこれから役割を想い重責を感じております。針間克己新理事長とともに、日本性科学会の発展が日本社会に寄与し、少しでも多くの方が性の健康や権利を享受し、そして新たに昨年のWAS（世界性の健康学会）でSexual Pleasure宣言が出されたように、快く過ごすことができるよう精進したいと思います。

1995年に横浜でWASが開催されたときは、右も左もわからずポスター演題を出し、幸運にもポスター賞をいただきたことは私がこの道に進む遠因となりました。確

公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター研究員
倖生会身原病院産婦人科
早乙女智子

か神戸でAOFSが開催されたときに、金子和子先生から、「この先生はとても有名な方ですよ」と言われ、懇親会でホテルの紙ナプキンにサインをいただいたのがJohn Money先生でした。2009年にオーストリアのWPATHとイエテボリのWASを行ったのが、本格的に性科学にのめりこむ大きな転機となりました。それから毎年、WASかAOFSに参加するようになり、海外の専門家とも知り合うようになります。2018年からはWASの学術委員もさせていただいている。

理事や幹事のみなさま、そして会員の皆さまからみてご不安な点の多々あることを承知しております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。